

## 第9回行革審委員からの意見について

委員名	意見	資料名
高橋正人 委員	<p>《基本方針「地域経営」の用語について》</p> <p>基本方針の1つである「地域経営」については、他の委員から指摘があったように、ネーミングに違和感がある。「改革の方向」及び「主要施策の例」からすると「市民参加」「公私協働」等のほうがよいのではないかと。</p>	資料2-6 (基本方針)
青山葉子 委員	<p>《現大綱における改善・未達成について》</p> <p>試案の中の「現大綱のまとめ」は成果だけに触れていましたが、今後、何を推進し、改善していくかを明確にするためにも、未達成の部分にも触れた方が分かりやすい。</p>	資料2-5 現行革大綱の取組
木村幸男 委員	<p>《資料提供について》</p> <p>資料提供の工夫について(資料が多すぎるため)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・反復使用する重要なものは、ファイルでまとめて一冊にする。</li> <li>・インデックス紙をつけて、必要な箇所へすぐアプローチできるようにする。</li> <li>・差し替えとなる資料の表紙部分には、「修正済差し替え分」のように明記しておく。</li> </ul>	全体
	<p>《会議の運営方法について》</p> <p>審議会そのものが、討議・合議が可能になるように、諸会議の運営方法を改善して欲しい。</p>	全体
	<p>《市民参画手続き、協働推進について》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パブリックコメント、タウンミーティングなども、極めて形式主義的なので、改善して欲しい。</li> <li>・以前から、市民参画の手法が試みられているが、いずれも旧態依然としたものばかり。公聴手法と合わせて、これからの時代に相応しいものを模索したい。</li> <li>・市民参画、協働推進には、情報公開と情報共有が不可欠。広報紙の発行回数が半減することを踏まえたうえで、どういう改善策をとるべきか、看過できない課題である。</li> </ul>	
	<p>《上記のまとめ》</p> <p>「3次総」「新大綱」をまとめていくために不可欠な、都市経営・組織活動のインフラストラクチャーになると思います。</p>	
	<p>《「2次総」「3次総」「新行革大綱」について》</p> <p>現実に立脚していない時代認識とならないよう、「3次総」と「新大綱」を策定すべき。</p>	
	<p>《時代認識と「2次総」「3次総」について》</p> <p>資料2-4 地域経営への転換は意味が違うのでは。論議の核となる視点は、「地域経営への転換」ではなく、「地域経営そのものが、市民参画と協働に転換する」ということではないか。であるなら「地域経営への転換」は確信を不鮮明なままの曖昧な表現ではないかと思う。</p>	資料2-4 (3次総概要)

木村幸男 委員	<p>《「新行革大綱」と「総合計画」について》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「新大綱」と「3次総」は、市政の大きな柱であるため、コラボすることで、多角的な考察が可能になり、人材育成的な効果も期待できると思う。</li> <li>・「3次総」と「新行政改革大綱」の時代認識・ポジショニングに差異がないようにするべき。 (ただし、細部の微妙な部分や意図的・戦略的に差異をつけるなら構わない)</li> </ul>	
	<p>《時代認識とポジショニングと審議委員の思想について》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料「2-4」、「2-5」に記載された時代認識、その他の検討をした上で資料「2-6」に記載された内容の妥当性を判断するために、時代認識・価値観・歴史観、その他と正面から対峙する必要がある。</li> <li>・会議において高橋(節)委員からの「明るい未来論ばかりでなく、もっと地についた堅実な未来像を基調にすべき」という提案にもあったように、厳しい現実から遊離して、人間の思考だけが、いつまでも「右肩上がりの」であってはならないと思う。</li> </ul>	<p>資料2-4 (3次総概要) 2-5 (現大綱の取組)</p>
	<p>《新大綱全体試案は市民はどうとらえるか》</p> <p>市民(企業などを含む)は、地方自治における協働のパートナーである。パートナーにも、それなりの自制心・自立心は要請されるべきで、「市民の責務」についても、問題提起や言及が不可欠であると考えます。</p>	<p>資料2-6 (全体像試案)</p>
	<p>《大綱全体像試案について》</p> <p>資料「2-6」の「現大綱のまとめと新大綱への考え方」に記載されていることは「考え方」より、「事業の方向性」に近い内容のため、「新大綱の方向性」としたほうが正確な表現ではないか。なぜなら、「なぜそうするのか」という判断・理念・思想がないためである。</p>	<p>資料2-6 (全体像試案)</p>
	<p>《用語の変更について》</p> <p>地域経営 → 市民参画経営 開かれた市政の推進 → 情報共有化の推進 情報化の推進 → 情報最適化の推進</p>	<p>資料2-6 (全体像試案)</p>